

Lesson 3 京都へ観光に

A 自動詞と他動詞 後ろに目的語(O)がこない場合は自動詞、目的語がくる場合は他動詞
主語と動詞の組み合わせで意味を表す動詞が自動詞です。

動詞の働きを受ける名詞を後に続けて意味を表す動詞が他動詞です。動詞の後ろに続ける名詞のことを目的語と呼びます。

1. a. その銀行は 9 時に開く。

The bank opens at nine o'clock.

- b. ジムは引き出しを開けてホッチキスを取り出した。

Jim opened the drawer and took out a stapler. 文房具) scissors, glue, ruler

a.は、「銀行は開く」で文章が成り立ちます。この文章の「9 時に」は「その銀行は 9 時に開く」つまり、他の銀行は違う時間に開くし、この銀行も他の時間に開く可能性があります。ということで、「あってもなくても関係ない」と考えます。

b.の方は「ジムは開いた」となると「何を開いたのか?」ということが述べられないと文章が成り立ちません。そこで動作の対象・目的の「引き出し」が目的語になっています。

※draw 「銀行口座からお金を引き出す」という意味もあります。(withdraw も同じ意味)

2.

- a. 昨日、ベティーはパリへ発った。

Betty left for Paris yesterday.

- b. 弟は電車に傘を忘れてきた。

My brother left his umbrella on the train.

a.は「ベティーは発った」で文章が成り立ちます。どこに向かったかは二の次です。b.は「弟は忘れた」では「何を忘れたのか?」ということが述べられないと文章が成り立ちません。そこで動作の対象・目的の「傘」が目的語になっています。

Honestly speaking, however, よく分かりません。この辺はもう"because it is!"と考えて、自動詞と他動詞云々ということで覚えるのではなく、それぞれ覚えてもらった方がいいと思います。ただ、基本的には熟語のように「動詞 + 前置詞」で覚えて、以下のような動詞を使う場合は気をつけるようにしてください。なお、この知識が問われる場合も典型的な出題パターンがありますので、そこで対応して行きましょう。

B 間違えやすい自動詞と他動詞 前置詞の有無に注意する

3. 私たちは真夜中にホテルに着いた。

a. We arrived at the hotel at midnight.

b. We reached the hotel at midnight.

他動詞なので前置詞が必要ない動詞の例

accompany (~と一緒に行く)

answer (~に答える)

approach (~に近づく)

contact (~と連絡を取る)

discuss (~について議論する)

follow (~について行く)

inform (~に知らせる)

leave (~去る)

marry (~と結婚する)

obey (~に従う)

oppose (~に反対する)

reach (~に到着する)

resemble (~に似ている)

touch (~に触る)

4. サリーは自分の失敗を謝った。

Sally apologized for her mistake.

5. 6時以降は校舎に入ってはいけません。

You cannot enter the school buildings after six o'clock.

C 群動詞 2語以上のまとまりで1つの自動詞・他動詞の働きをする

動詞に前置詞や副詞などがついた語のまとまりが、1つの動詞と同じ働きをすることがあります。これを群動詞と言います。

代表的な群動詞を機能別にまとめます

1. 「動詞+前置詞」で他動詞の働きをするもの

call on (～を訪ねる)	deal with (～を扱う)	do without (～なしですます)
look at (～を見る)	look for (～を探す)	look after (～の世話をする)
look into (～を調査する)	hear from (～から連絡をもらう)	hear of (～について伝え聞く)
ask for (～を求める)	come across (～に出くわす)	get over (～を克服する)
stand for (～を表す)	take after (～に似ている)	wait for (～を待つ)
wait on (～に仕える) 等		

2. 「動詞+副詞」で自動詞の働きをするもの

break down (故障する)	break out (急に発生する)	go on (続く)	look out (気をつける)
run away (逃げる)	get along (うまくやっていく)	set out (出発する)	
show up (現れる)	stand out (目立つ)	turn up (現れる)	等

3. 「動詞+副詞」で他動詞の働きをするもの

bring up (～を育てる)	make (figure) out (～を理解する)	call off (～を中止する)
bring about (～を引き起こす)	give up (～を断念する)	pick up (～を拾い上げる)
put away (～を片付ける)	put off (～を延期する)	put on (～を着る)
take off (～を脱ぐ)	carry out (～を実行する)	turn on (～を付ける)

注意) 「他動詞+副詞」の場合の目的語の位置

a. 目的語が名詞の場合

「他動詞+副詞+名詞」と「他動詞+名詞+副詞」の、両方の語順が可能。ただし、長い目的語の場合は「他動詞+副詞+名詞」となる。

「Take off your coat.」でも「Take your coat off.」でも可（上着を脱ぎなさい。）

「Give up your plan to go to France.」は可。「Give your plan to go to France up.」は不可。

b. 目的語が代名詞の場合

「他動詞+代名詞+副詞」の語順だけ可能。

「Take it off.」は可。「Take off it.」は不可。

4. 「動詞+副詞+前置詞」で他動詞の働きをするもの

come up with (～を思いつく) do away with (～を廃止する) keep up with (～についていく)
look up to (～を尊敬する) look down on (～を見下す) look forward to (～を楽しみに待つ)
catch up with (～に追いつく) get along with (～をうまくやっていく) put up with (～に耐える)
run out of (～を使い果たす) make up for (～の埋め合わせをする) 等

5. 「動詞+名詞+前置詞」で他動詞の働きをするもの

take care of (～の世話をする) catch sight of (～を見つける) find fault with (～の文句を言う)
make room for (～に場所をあける) make use of (～を利用する)
take advantage of ([機会など]を利用する、～につけ込む) pay attention to (～に注意する) 等

6. アランは会議に現れなかつた。

Alan didn't show up for the meeting.

7. 私たちはひと休みできるカフェを探した。

We looked for a cafe to take a rest in.

Expressions

1. あなたからの便りを楽しみにしています。

I'm looking forward to hearing from you.

2. 私たちが留守の間、バーバラは私たちの犬の世話をしてくれた。

Barbara took care of our dog while we were away.